島谷汽船 鮮海丸	油差	古藤 正之	病氣、治療歸國費
函館海運 浦潮丸	火夫長	園部 三郎	下船手當
日出汽船 明星丸	舵夫	太寳 忠	病氣治療費
田中商事 福浦丸	水夫	佐藤 芳枝	病氣歸國治療費
笠原商事 平安丸	同	三好 美里	傷害手當
日本合同 讃岐丸	石夫	渡邊 綱一	同
共立汽船 華陽丸	舵夫	林 房太郎	病氣、歸國治療費
東京灣汽船 太郎丸	船長	島崎 藤吉	海難死亡手當
共立汽船 夕張丸	水夫	花田 勇男	障害手當
明治海運 明光丸	甲部員	園田 虎龜	死亡弔祭料
東和汽船 昭榮丸	水夫	吉田雄之助	負傷手當
川崎汽船 常磐丸	船長	奥本 玄一	退職手當
上野汽船 隆光丸	水夫	高京 南	公傷歸國治療費
白坂汽船 濟州丸	大工	吉井 政家	死亡手當
豊彦汽船 豊彦丸	甲見	不二原茂喜	歸國旅費
太陽汽船 樺陽丸	石夫	山口喜代松	病氣治療費
大福汽船 大福丸	火夫	金 占奎	病氣歸國治療費
東洋汽船 旺洋丸	甲部員	村上 四郎	歸國治療費
林商船 榮進丸	水夫長	星川忠四郎	職務負傷手當
橋口汽船 六大星丸	火夫長	青野德太郎	病氣治療費
荻布海商 十三共同丸	火夫	荒木多次郎	病氣歸國治療費
千代田汽船 富士丸	甲部員	福 悅吉	國治療費
大福汽船 大州丸	火夫	山本 利次	職務負傷手當
日本タンカー 瑞洋丸	甲倉番	鈴木 春吉	公傷保障手當
佐藤國 昭和丸	料理人	村上 康次	病氣治療費
齋藤合名 壽滿丸	火夫長	中野 賢次	病氣歸國治療費
八馬汽船 十二多聞丸	水夫	池畑 義男	同
鹽田回漕店 永保丸	火夫長	池田松三郎	職務負傷治療費
大信汽船 大信丸	機倉庫番	幕 明福	下船手當
大西汽船 肥前丸	水夫	齋藤 幸出	病氣入院治療費
豊彦汽船 豊彦丸	石夫	辻 武	公傷歸國治療費
國際汽船 べニス丸	水夫	山口彦太郎	病氣治療費及歸國旅費
橋本汽船 龍威丸	油差	藤木友義	職務負傷(左眼失明)慰藉料及旅費
南洋郵船 バンドン丸	機部員	谷川 時夫	退職手當
山本汽船 元山丸	火夫	上村 長市	障害手當
川崎汽船 たいん丸	機部員	清水 一雄	障害手當、遺留品手當
白阪汽船 濟州丸	火夫	田中麒那猪	病氣治療費
川崎汽船 でんまあく丸	油差	稻葉 貞雄	治療費及旅費
福洋汽船 隅田丸	火夫	朴 永波	同
近海郵船 朝日丸	同	山中榮太郎	病氣歸國治療費
守石合名 正和丸	舵夫	加藤田市次	職務負傷、歸國治療費
近海郵船 朝日丸	火夫	吉滿 記親	病氣退院、歸國旅費
國際汽船 スエズ丸		久原 助雄	病氣歸國治療費
中村組 八十川丸	機部員	根橋 末廣	病氣治療費
川崎汽船 吳淞丸	水夫 石夫 同	坂井 利春 花塚 清治 松元凉太郎	最低給料不實施
辰馬汽船 桃葉丸	石夫	金 學棠	病氣歸國治療費
松岡汽船 御崎丸	水夫	山口 一慶	公傷歸國治療費
富士汽船 秦久丸	機倉番	中野 龍男	病氣治療費
島谷汽船 太平丸	水夫	高瀬 占治	職務負傷、入院治療費
辰馬汽船 桃葉丸	石夫	大野 一雄	歸國療養費
辰馬汽船 白辰丸	水夫	朴 金貴	職務負傷治療費
酒井汽船 明治丸	石夫	中川 稔	歸國療養費

教育出版部報告

「非常時」時代の社會情勢に對應すべき組合運動は、「非常時」を如何に認識し、如何に把握するかの問題から出發しなければならぬ。

動もすれば「非常時」の聲に脅えて、無批判的に日本主義乃至國家主義に逃避し、ファッシズムの防身具に假裝を急がんとする傾向の極めて濃厚であつた本年度に於いて、教育出版部の任務は甚だ重大であつた。

然しながら、國外並國內情勢の逼迫にも拘らず、海上勞働者の間に極左の共產主義者の攪亂なく、又極右の反動主義者の擡頭もなかつたその一半の役割は、實に當部の活動に負ふ處のあつたことは否定することは出來ない。

現在教育出版部が組合運動に於いて直接課せられてゐる任務は、「機關誌」海員の發行と、茶話會を通じての組合意識の高揚である。

機關誌「海員」に於いては每號組合の指導理論乃至當面せる諸問題に對する組合の態度を宣明したが、掲載記事中屢次政府當局の意に反し、注意、戒飭をうけた內容のあつたことは、資本主義の落潮期に於ける解放運動戰野に於ける指導的言論機關としては、止むを得ぬ處であつた。又是こそは海員が如何に正しき階級性を把持してゐるかの證査でもあらう。

又茶話會による教育出版部の任務の遂行は、本支部に於ける定例乃至臨時茶話會の外、組合員の要望により兵庫縣相生及各地組合指定宿泊所等に於いて移動茶話會を開催し、組織部員並教育出版部員出席して海上勞働問題に對する本組合の態度方針を說明し、同時に組合員の希望意見等を徵し組合運動の圓滿なる進展に資した。

本年度に於ける本支部茶話會は總計六十一回、是に出席した組合員總數は八六二〇名に及んだ。

尙機關誌「海員」は前組合長楢崎猪太郎氏の逝去せらるに當つて追悼號を特輯してその功績を永久に記念した。